

## 第2回 塩竈市水道事業基本計画検討委員会の概要

日 時 令和3年8月10日（火）～8月29日（日）  
場 所 塩竈市水道部 2階小会議室 他  
※新型コロナウイルス感染症対策のため、持ち回り及びメールでの回議とした  
委 員 西村委員、嶺岸委員、小林委員、鈴木（洋）委員、東委員、内海委員、  
鈴木（幸）委員、菊田委員、千坂委員  
塩 竈 市 水道部長、水道部業務課長  
事 務 局 水道部業務課企画総務係

### 1. 議事意見内容

事務局より資料の説明後、委員より質疑応答。

#### (1) 議事1「水道事業の現状評価と将来環境」

(委員) 浄水場を仙台市と共同で行うものが国の方針としても合っている。また、近隣市町との広域化を含めれば補助が手厚いのではないか。

(委員) 今年2月の断水で地区により復旧の速さが違うのはなぜか

(事務局) 浄水場から直接水が送られている地区は浄水場の復旧と近いタイミングで復旧できる。ほかの地域は配水池を経由しているため、配水池が充水されてから供給されるため、通水時期がことになってしまう。

(委員) 災害時の連絡体制を事前に設定するべき、指揮系統を明確にし、大規模の断水であれば水道部のみでの対応は限界があると思われる。市役所全体の対応が必要ではないか。

(事務局) 災害時の体制についてはマニュアルを作成している。訓練・点検体制を強化して非常時の安定供給を図ってまいりたい。

(委員) 小水力発電が立地的にとてもよいと思う、今後検討する余地があるのではないかと思う。

(委員) 高齢者の安否確認にも活用でき福祉とも連携できる、スマートメーター（※）の導入は検討しないのか。民生委員のなり手不足の状況の改善にも役立つのでは。

(事務局) 浦戸で試験導入をしている。

※スマートメーター：遠隔で検針値等のデータを取得でき、指定された時間間隔もしくは一定水量の使用ごとにデータ送信ができる水道メーターをいう

(委員) 生活保護世帯の料金徴収の現状は

(事務局) 生活保護支給日に水道料金を徴収できるよう保護担当部署と連携している

(委員) 仕事で水の使用量が多い、その際多く使用したら割引する制度はないか

(事務局) 塩竈市を含め大多数の水道事業者は、水道メーターの口径ごとの基本料金と、使用した水量による従量料金制を採用している。また、使用水量が多くなると料金単価が高くなる逓増制料金となっている。

水道事業では、施設整備にかかった費用を水道料金で賄う独立採算制であり、大口使用者は多く給水が必要で施設が大きく、維持費用も増えていくため、使用水量の少ない一般の家庭の料金と公平性を保つために採用されている。

(委員) 浦戸へ運んでいる水道管は 1 本なのか、災害時の水確保の不安がある

(事務局) 浦戸への送水管は 1 本である。東日本大震災後の復旧事業では津波への対応のために海底に埋設する工法で布設し、災害対策を強化した。

(委員) 水道料金のクレジット払いはできるか

(事務局) 同様の要望を頂いており検討は行ったが、本市の規模ではカード会社に支払う手数料との採算が合わないため行っていない。なお、スマートフォンアプリ決済は導入している。

(委員) 経営で力を入れているところは。

(事務局) 各事業体で水道水を未来にわたって安定に供給するため、財政のバランスが大切と考えている。

(委員) 梅の宮浄水場をなくすメリット・デメリットは何か

(事務局) 両市共同で建設するため、塩竈市単独で浄水場を更新するより費用面でメリットがある。浄水場が遠くなるので、事故対応などの懸念について仙台市と詳細を詰めていく必要がある。

(委員) 浄水場の共同化は仙台市・塩竈市のみなのか、他の利府町・多賀城市等は一緒ではないのか。

(事務局) 基本的には仙台市、塩竈市の両市の浄水場を統合するという方針である。他の市町との広域化にかかわる検討は、宮城県が広域に向けたシミュレーションを行っているところである。

(委員) 10 年先の計画なのでこれからの水道を考えていくべきである、これまでのしがらみに縛られることなく、自主水源をメインとして運営を考えてほしい。

(委員) 塩竈市は市域に対し、導水管の延長が大きく、老朽化も進んでおり、今後の更新費用がネックであると考え。その中で、経常費用の縮減を進め、経常的収支は黒字を維持するよう経営努力に努めていると感じている。

(委員) 今後の料金の見直しは考慮していくのか。

(事務局) 国で示されているように3～5年のスパンで財政の見直しを作成、現行料金の精査をしていく必要がある。今回策定する基本計画でも料金制度の評価検証について盛り込む予定である。

(委員) 現在、企業債が低く運用されている。将来的な設備投資のため今後は企業債を増やしていくこととなると思われるが、人口減少が進んでいく中で、将来世代がより大きな負担をしなければならない恐れもある、将来財政見直しの中で、起債充当率なども考慮したほうが良い。

(委員) 今年は九州、長野で大雨が続いている。災害時の作業する業者や自衛隊など本当に大変に思う。今まで想像できなかった災害が今後増える恐れもあり、災害に対する対策強化をしてほしい

(委員) 給水装置の耐用年数は

(事務局) 土質にもよるが現在のポリエチレン管であれば30年程度である。

(委員) 漏水検査は実施しているのか

(事務局) 道路内の配水管は夜間などに定期的に行っている。一般家庭の給水装置の場合は、検針員が検針メーターの水量を確認し、漏水の恐れがあればお知らせをしている。

(委員) 水道料金について塩竈市は安いのか高いのか

(事務局) 県内では5番目に安いが東京や大阪といった大都市と比べると高い。

(委員) 元々の水質が良いことをもっとPRするとよいと思う、使用者からするとお金をかけなくてもきれいな水であるためお得な気分になる

(委員) 災害時こそ水のありがたさがよくわかり、最近は備蓄している家庭も多いようだが、備蓄しているものでは生活が回らないという家庭もあるかと思う。

(委員) 災害時の給水場所の位置や、給水時の注意点、水の保管方法、保管の期限などをアピールすることで、特に乳幼児がいる家庭でも災害時に安心して水を利用できるのではないかと思う。

## (2) 議事2「基本理念、基本目標について」

(委員) 新水道ビジョンに基づく「持続、安全、強靱」の3つの基本目標を設定するのはよいが、前基本計画で「環境」を基本目標にしていたので、「環境」について縮小したような印象を持たれない工夫が必要ではないか。

→ (事務局) 環境対策についても水の安全に直結したものであるため、次期計画に盛り込む予定である、なお、委員のご指摘のとおり、表記については対応する。

(委員) 基本目標のうち「持続」に対応した目標である「安定した経営基盤の強化」について、持続的な経営を想起しやすい題名にしたほうが良いのではないかと。

→ (事務局) 改めて検討し、次回委員会でお示ししたい。

### (3) 議事3「工業用水について」

(委員) 単価が妥当か含め検証が必要ではないかと思う。

(委員) 前回委員会で話ができた工業用水について、通常の飲料水と違うのか。

(事務局) 平成15年からは上水道を団地組合に供給し、団地組合では生産用水として各加工業者へ供給している。

## 2. その他

- 80周年記念事業の選定について全委員より内諾いただいた
- 第3回委員会は令和3年10月初旬とする